
教師たちの8月31日

雛祭パペ彦

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

教師たちの8月31日

【Nコード】

N0326B

【作者名】

雛祭パペ彦

【あらすじ】

恐怖の影におびえる学校長。運命の9月1日に向けて、プロジェクトが動き出す。ギャグSS。

「ごぶさたです」

「あ、おひさしぶりー」

職員室は、活気と喧騒に満ちていた。

「えー、先生方、ご苦労さまでございます」

全員がそろったのを見計らい、教頭が口をひらいた。

「長い夏休みも今日で終わりを迎え、いよいよ明日から2学期が始まります……と、いうことは、またあの『恐怖の9月1日』がやってくるわけで」

いまいましそうに表情を歪める教頭を見て、多くの教師たちが苦笑いを浮かべる。

「それにしても、昨年の9月1日はヒドかったですなあ」

ベテラン数学教師が、しみじみと言ってみせた。

「夏休み明けに出勤してみたら、500人以上いるはずの全校生徒のうち、たった34人しか来ていなかったのですから……」

教頭が、取り出したハンカチで、オデコの汗をぬぐう。

「あの失態は、全国紙によって大々的に報道されてしまい」

「そのせいで、我々のボーナスは半分になり」

「妻からは、さんざん踏みつけにされ……ふきよーっ！」

とつぜん、教頭が絶叫した。どうやらトラウマが発動したようだった。

「教頭！ 大丈夫ですか？」

数人の教師たちが駆け寄る。

「あ、こ、これは私としたことが……申し訳ない」

エアコンは効いているものの、教頭は汗まみれだった。

「えー、おほん。と、いうことで、夏休み明けに大量発生する『生徒たちの登校拒否』を解消するため、今年の9月1日から『3学年・同時修学旅行』が実施されることになったのは、先生方もご承知の

とおりです」

「さすがの彼らも、楽しい修学旅行が始まるとなっては、イヤでも登校してくるでしょうな」

100時間以上の職員会議の結果、生まれたアイディアだった。

「では、まず1年生の予定から確認していきましよう」

そう言い終えると、教頭は気が抜けたように、いったん席に腰をおろした。

「えー、では1年生の旅行日程から」

学年主任の男性教師が立ち上がる。

「1年生は、京都&奈良の3泊4日です。まずは、アレを訪れたあとコレに行って、ソレをしたあとにアレに泊まり、2日目には、かの有名なアレから飛び降りる体験をして、あとは自由行動です。3日目は、アレコレ満喫したあとに自由行動。翌日、学校到着となります」

「歴史の香りを、めいっぱい楽しめますなあ」

白髪混じりの教師が、うらやましそうに言った。

「それじゃあ、次、2年生の予定を」

教頭の言葉を受けて、学年主任の女性教師が立ち上がる。

「2年生は、スイス・ヨーロッパ7泊8日の旅です。まず学校を出発して、10時間後に現地へ到着。それから2日目はフニャララ、3日目はホニャララ、4、5日目はヘニャララ、6日目はヒニャララして、7日目にドニャララ観光を楽しんだあと、8日目に学校到着となります」

「行き帰りの飛行機が、墜落しなければいいですなあ」

白髪混じりの教師が、嫉妬まじりに言った。

「それでは、最後に3年生の日程を」

教頭に言われ、若い学年主任が立ち上がる。

「3年生は、宇宙体験20日間です。私自身、宇宙は初めてなので、少しばかり緊張しております。まず1日目は、空港を出発して、NASAがあるケネディ宇宙センターに……」

こうして簡単な打ち合わせが行われた後、教師たちによって、500人超の生徒ひとりひとりへの電話連絡が行われた。まさに、万全の態勢だった。

そして、翌日。

「……やりましたね、教頭」

運動グラウンドには、500人以上の生徒が、みな笑顔を浮かべながら整列していた。

「ああ、これで妻に叱られなく……教育者としての責務を果たせる」
感激のあまり、教頭は涙ぐんでいた。努力は、報われたのである。
「ところで、教頭。さっきから校長先生の姿が見当たらないのですが、ご存知ありませんか？」

教頭は、言われて初めて気がついた。

昨日の職員会議にも、校長の姿はなかった。

「よし。私が連絡してみよう」

そう言って、教頭は携帯電話のアドレス帳を開く。
プルルルル……

「……んあ？」

電話に出たのは、いかにも不機嫌そうな声だった。

「あ、おはようございます」

「え？ 誰？」

「教頭でございます」

「あっ！」

明らかに、校長の声は戸惑っていた。

「もうすぐ、こちらに到着するのでしょうか？」

うすうす感じながらも、教頭は尋ねた。

「えっ……う、うん。そうだなあ。あと10分くらいで、つ、つつ着くと思うけど……あっ！ 何だこれは、まわりの空間が歪みはじめたぞ！」

唐突に、受話器ごしの校長が騒ぎはじめる。

「ま、まさか！　これがあの有名な『バミューダ・トライアングル現象』か！　あらゆるものを異空間へと連れ去ってしまうという、魔のトライアングル地帯が、このハワ…じゃなくて日本にもあったとは！　うわー、もう少しで学校に到着するところだったのにいー。うわー、残念。うわー……プツッ」

かなりの棒読み調子で、校長側の通信は切れた。

それから、2日後。

たっぷりと日焼けをした校長が、お土産（マカデミアナッツ、アロハシャツ等）の入った紙袋を両手に提げて、出勤してきた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0326b/>

教師たちの8月31日

2011年9月29日15時43分発行